

と考へてゐる。それ等の人々は、非常に卑屈な考へを持ち、生活をどこ迄も功利的な物質的な目を持つて見てゐる。自分の地位を失ひ、その與へられた職業から離れしめられることを非常に恐れてゐる。その地位に暗り附いてゐるか、少しでも地位を高める爲には、どんな卑劣な行爲でもする。

なる程その地位を失ひ、職務から離れしめられることは、即ち食つて行けなくなることを意味するのであるから恐いには違ひない。然し斯く人の意志によつて、自分の生活が明日にも破壊されるものであるといふその根本の不合理については、少しも思ひを及ぼさずゐるといふことはどうしたことであらう。彼等が少し位地の人より多くの月給を取つてゐたからとて、少しも誇るには足らない。そんなことは全く無意義なことである。彼等は少しでも主人の機嫌を害ねるか、主人の方で儲つておく必要がなくなるか、兎に角主人の方の都合次第で、いつでも投げ出されて了ふのである。そして投げ出された彼等は無産者の悲しさに、直ぐもう食ふに困るのである。こんな不安定な状態にありながら、一時の平安を偽んで、呑気に構へてゐるとすれば、随分情ないこと、言はなくてはならない。

若し又彼等がやがては自分達も資本家階級に成り上り、人を支配する地位に立つことが出来るものであるといふ望みを持ち、野心を懐いてゐるのであるとすれば、最早吾々は彼等に對して何も話しかける必要はない。彼等は當然民衆運動の敵となる人々である。彼等はその將來の運命に對して覺悟を

しなくてはならない。民衆運動は、いつかは彼等の野心を碎いて了ふ時が来るのであらう。

知識階級の人々が、眞に自覚め来るならば、最早資本家階級の走狗となつてゐるのを附しとせざるべきで、必ずや労働者と提携して無産者階級全體の解放運動の爲めに努力するやうになるであらう。眞に彼等が彼等自身を解放せんと欲するならば、さうした道をとるより外にはないのである。眞に自由を冀ふ人々は、自分をも自由にせんことを欲すると共に、人を自由にもせんと欲するのである。資本家になることに依つて、決して自由は得られるものではない。然るに多くの人々は間違つた考へに囚へられてゐるやうである。人を犠牲にしておきながら自分ばかり自由になることは出来ない。社會全體の人々が、何人も絞取したり絞取されたりすることがなく、何人も壓迫したり壓迫されたりすることがなく、互に對等の關係に立つことが出来がやうになつた時、眞の自由が實現するのである。さういふ時代は容易には來ないかもしれない。然しさういふ社會の來ないのは、各人がまださういふ時代に於ては、必ずや來るものであることを思はなくてはならない。努力の如何に依つては、近き將來

知識階級の人々の餘りに呑氣なやうに思はれるので、時には齒痒く思はずにはゐられない。もつと今世界到る處に動きつゝある民衆解放の運動に對して理解を持たなくてはならない筈の人々が、とん